

意識の改革

男女共同参画とは、女性と男性が、家庭生活と職業生活を両



男女の役割分担が基本です

立しながら社会活動を行うとともに、あらゆる分野での方針・決定の場に平等に加わることで、私たちの地域や職場を見直す、多くの組織で男性が会長や役員となり、その方針や事業など、男性中心の意志で決定されていることが多いように思います。そして、私たちはそのことを当然のように受け止めてはいないでしょうか。このような

慣習は、長い歴史の中でその時の社会や文化によって、男と女の役割が振り分けられたものです。みなさんは、日頃「男らしく、女らしく」を他人に押し付けたり、押し付けられていませんか？「男らしく、女らしく」ではなく、自分らしく、その人らしく個性と能力を發揮し、さまざまな分野で活躍できることが

大切ではないでしょうか。

責任を分かち合う

このような、私たちに社会的・文化的につくられた男女のちがいを「ジェンダー」が、私たちに「男は仕事、女は家事・育児」といった役割分担意識を植え付けました。その結果、男性は仕事に追われ、極度のストレスからノイローゼになり、自殺に追い込まれたり、また、妻に暴力を振るうといった事件が表面化してきました。

二十一世紀は、女性と男性があらゆる分野でいきいきと暮らしていくことのできる、真の男女平等社会を築いていくことが重要な課題です。婦人参政権の確立から五十六年、女子差別撤廃条約の発効から二十一年、男女雇用機会均等法の施行から十六年。明日から急に社会が変わるわけではありませんが、そろそろ形だけの男女平等から抜け出さなければなりません。

男女共同参画社会の実現

今から始める
男女共同参画

こもり たけひこ
鳥取市男女共同参画室 主事 小森毅彦

一方、女性は家事・育児などを担い、一人で悩みを抱え込み、その行き詰まった感情が児童への虐待などに発展するケースも見受けられます。昨今の悲しいニュースの背景には、このような実態が原因の一つであることを見逃してはなりません。このように、男女の役割分担意識が、家庭や職場、地域社会にあり、それに悩む人がたくさんいます。「男がやること」、「女がやること」の固定的な枠組みを早く取り払うことが必要です。

近年、女性の社会進出が進み、一方では少子化が深刻な問題になっています。女性が職業を持つことが少子化の原因と指摘する人がいますが、男性が仕事に縛られ、家事・育児に協力できなかったことに原因があるように思います。今後は、お互いが家事や育児などの責任を分かち合うことが大切であるとともに、ゆとりある家庭生活を送ることができる社会のシステムを整えることが必要です。